

2. 各特別勘定の運用状況

日本株式型特別勘定 運用状況 (2009年11月末現在)

運用方針

- 主に日本企業の株式に分散投資することによって、中長期的な成長を目指します。
- 東証株価指数(TOPIX)を上回る投資成果を目指します。
- 運用にあたっては、当社が選定した複数の投資信託を組み合わせた運用を行います。なお、運用成果の向上を図るため、特別勘定で投資する投資信託については、継続的にモニタリングを行い、適宜見直しを行っていきます。

資産内訳

	金額(千円)	構成比
投資信託	15,272,321	98.2%
現預金・その他	278,312	1.8%
合計	15,550,633	100.0%

運用状況

2009年11月の国内株式市場はTOPIX(配当込み)で前月比6.11%下落しました。日本の7-9月期実質成長率は輸出の回復から2四半期連続でプラス成長となりました。しかし、物価は下落基調にあるとの認識が広まる中、相次ぐ増資発表や円高の進行などから株価は下落しました。日経平均は月間で689円安の9,345円となりました。このような市場環境の中、当特別勘定は6.85%下落しました。

現在、マルチ・マネージャー型の「ラッセル日本株式ファンドI-3」、バリュー運用を行う「日本株バリューマルチマネージャーファンド」および「SGターゲット・ジャパン・ファンド」への投資を行っています。

11月は資金流入に合わせて「ラッセル日本株式ファンドI-3」の購入を行いました。

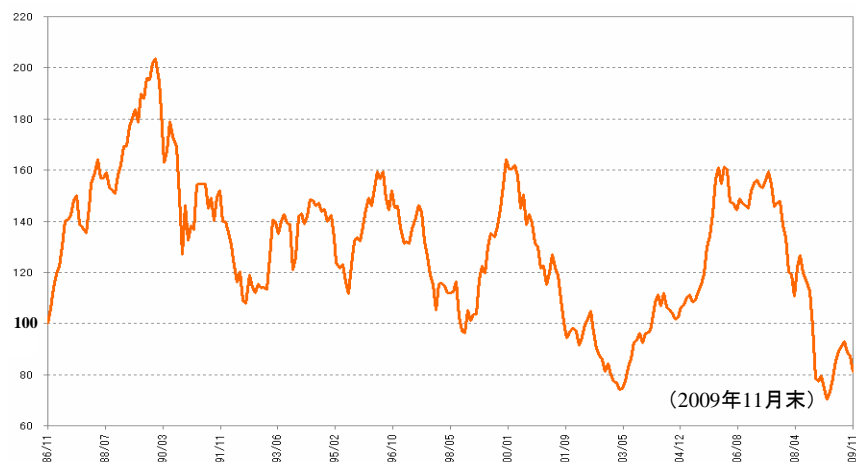
12月についても、これらのファンドへの投資を継続する方針ですが、ファンドへの投資配分・入れ替えについては適宜検討します。

ユニット・プライス騰落状況

ユニット・プライス	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
81.29702798	▲6.85%	▲12.68%	▲4.60%	+5.16%	▲43.92%	▲20.44%	▲18.70%

(注)ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための参考値で、特別勘定の運用を開始した時点(1986年12月1日)を「100」として数値化したものです。

ユニット・プライスの推移(運用開始日:1986年12月1日)



ポートフォリオの状況

[組入れ投資信託(投資比率)]

ラッセル日本株式ファンド I-3 (67.2%) : p15上段
日本株バリューマルチマネージャーファンド (17.6%) : p15下段
SGターゲット・ジャパン・ファンド (13.4%) p16上段
現預金・その他 (1.8%)

(注)「p15上段」等と記載してあるのは、各投資信託の運用状況を記載しているページです。ご参照ください。

ご注意

『当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を2/27ページに掲載していますので、必ずご参照ください』

■将来の投資成果を保証するものではありません

当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。